

# 鞍手地区点検評価委員会の意見書

令和6年 11月 15日

宮若市教育委員会 殿

点検評価委員会  
委員 福岡教育大学

豊島啓司

委員 宮若市

下田和子

委員 鞍手町

石松和彦

委員 小竹町

谷川龍児

令和5年度の貴教育委員会の運営状況について、点検及び評価をしましたので、別紙のとおり意見を報告いたします。

## (別紙)

	点検及び評価に関する委員会の意見
教育委員会の開催状況	<p>○委員活動については、感染症対策等に考慮しながら、学校行事や学校経営説明等を通じ、校長等より各学校の方針・課題について確認している。また、委員会については、検討・審議が必要な案件について適切に会議が開かれ、良好に実施運営されている。</p>
教育施策の主要施策の状況	<p>○教師主導の指導（ティーチング）から児童生徒主導の（ラーニング）への基調転換が必要である。文部科学省が目指す新教育課程の内実（学力基盤から資質能力基盤への変換）を踏まえた授業の質的担保が重要と考える。生徒が学ぶ意義を感じる文脈的な学習課題が単元レベルで設定された授業運営を期待する。</p> <p>○先進的に取り組んでいる学力向上プロジェクト E 事業については、非常に評価できる。今後は、子供たち主体での学習の強化という視点での事業推進を期待する。学力・学習状況調査における新たな課題についても「みやわかアフタースクール」や「MUSUBU スクールみやわか」を切り口としたプロジェクト E 事業を用いた課題解決にも期待したい。</p> <p>○増加傾向にある不登校児童・生徒に対する各学校の SSW やスクールカウンセラーの配置数が適正であるか、学校現場で大いに活かされているかどうかの判断を教育委員会で適宜行っていただきたい。</p> <p>○特別支援教育の推進については、予算や人員不足などの理由により様々な課題があると思うが、子どもに関わるコーディネーターの資質向上に向けた研修等の実施を継続的に行ってほしい。</p> <p>○宮若市の ALT 5 名の人的配置について、とても評価できる。授業以外で子ども達とふれ合う機会が多いと思うが、その環境をうまく利用した教育現場づくりに期待したい。</p> <p>○教職員の事務負担軽減につながる公会計の導入や、水泳授業やプール管理に係る負担軽減対応を是非検討して欲しい。</p> <p>○学校給食については、給食費の無償化を実施していることは大いに評価できる。来年度以降も永続的に無償化できるように検討していただきたい。</p> <p>○生涯学習センター事業への参加者数がコロナ禍前と同様に増加したことは、事業の遂行に向けた努力がうかがえる。</p>

	<p>○青少年育成事業や芸術文化活動の指標が目標値を達成していることも、市民の楽し�を追求した結果であると考えられるため、今後も市民を主軸とした事業を積極的に行っていただきたい。</p>
取組・事業の状況	<p>○限られた財源の中でも、工夫をしながら教育施策に基づく事務執行がなされている。今後も引き続き、適正な執行に向けて取り組んでいただくことを期待する。</p> <p>○不登校児童生徒数の教育相談件数については、各学校における受付件数で計上した方が良い。前年同様の方法にて計上し、比較できるようにしていただきたい。</p> <p>○校内の適応指導教室の利用について、利用者の復帰率と復帰できた経緯の把握に努めていただきたい。貴重なデータとして情報収集・記録を行い、今後の教育現場で大いに活用して欲しい。また、子どもの多様性に応じて支援の手助けをお願いしたい。</p> <p>○「調べる学習コンクール」の取り組みは、地域と学校間の学びの好循環が出来ていると考えられるため、今後も継続していただきたい。</p>

## 別紙様式1

## 令和5年度 教育委員会点検及び評価表 ( 宮若市教育委員会 )

## 教育委員会の開催状況

<p><b>定例教育委員会</b></p>	<p>開催回数 : <u>12回</u>          議決事項 : <u>14件</u></p> <p>【内訳】</p> <p>条例・規則等 <u>4件</u>、予算案 <u>      件</u>          方針・計画等 <u>1件</u>、人事案件 <u>      件</u>          委員等の任命・委嘱 <u>9件</u>、          その他 <u>      件</u></p> <p>協議事項 : <u>4件</u> (人事案件等)          報告事項 : <u>13件</u> (予算関係等)</p> <p>【研修等委員会協議活動以外の内訳】</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">内 容</th><th style="text-align: center;">実施回（日）数</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小中学校訪問</td><td style="text-align: center;">3</td></tr> <tr> <td>入園・卒園、入学・卒業、運動会、発表会、文化祭等</td><td style="text-align: center;">6</td></tr> <tr> <td>学校開放事業（E ウィーク）</td><td style="text-align: center;">0</td></tr> <tr> <td>学校経営説明会</td><td style="text-align: center;">6</td></tr> </tbody> </table>	内 容	実施回（日）数	小中学校訪問	3	入園・卒園、入学・卒業、運動会、発表会、文化祭等	6	学校開放事業（E ウィーク）	0	学校経営説明会	6	<p>(評価・課題等)</p> <p>本市の教育委員の構成は、住職、学習塾経営、保護者代表、教育関係者であり、性別は男性2人、女性2人となっている。欠員がでることなく4名で実施した。</p> <p>教育委員会会議については、毎月の定例会と必要に応じ臨時会を開催し、開催日時は毎回協議の上全員が出席できるよう可能な限り調整して開催した。</p> <p>教育施策などの重要案件や規則改正、懸案事項等についてだけでなく、些細なことでも積極的に質問や意見交換を行った。</p>
内 容	実施回（日）数											
小中学校訪問	3											
入園・卒園、入学・卒業、運動会、発表会、文化祭等	6											
学校開放事業（E ウィーク）	0											
学校経営説明会	6											
<p><b>臨時教育委員会</b></p>	<p>令和5年7月 第1回臨時教育委員会          開催理由 : ①小学生の水難事故について</p> <p>令和6年3月 第2回臨時教育委員会          開催理由 : ①教職員人事について</p> <p>令和6年3月 第3回臨時教育委員会          開催理由 : ①議決議案1件                            ②同意議案1件                            ③報告事項1件</p>	<p>(評価・課題等)</p> <p>小学生の水難事故の状況や対応の報告及び協議、教職員の人事に関する議案等について協議した。</p>										

## 事業の区分

### 学校教育の充実

#### 《事業の内容及び状況》

取組・事業名	実施状況・成果及び課題等
① 学力向上プロジェクトE事業の推進	(関連予算額 28,256千円) 「みやわかアフター・スクール」「MUSUBU スクールみやわか」を民間委託により実施し、放課後の学習機会を提供した。その結果、学習内容や学習習慣の定着、学習意欲の向上が見られた。今後も内容充実と地域と協働した運営体制の整備が必要である。 「みやわか教師塾」では、教員のニーズに応じた実践的な事例研究や外部講師による講話等の研修を実施した。この取組は、教員の資質・能力育成の一助となった。一方で、教員の働き方改革等を勘案することも必要である。
② 教育相談体制の推進	(関連予算額 9,180千円) SSWを常勤配置、SCを2名、教育相談員、学習相談員を配置し、教育委員会や学校と連携しながら、迅速且つ個に応じた相談支援を行う体制の充実を図った。 その結果、支援が必要な児童生徒の状況にいち早く気付けるようになり早期対応に繋がった。今後も引き続き児童生徒や保護者への教育相談体制の充実に努める必要がある。
③ 特別支援教育の推進	(関連予算額 26,272千円) 昨今の特別支援教育を取り巻く状況を鑑み、活動内容を見直して宮若市特別支援教育連携協議会をはじめ、3つの専門部会及び全体研修会を実施した。 今後も特別な支援を必要とする児童生徒への支援の充実とスマートな就学に向けた保幼小中の連携を推進するとともに、特別支援教育に係る教員の資質の向上に取り組む。
④ 国際理解教育の推進	(関連予算額 22,578千円) 小学校における外国語科の学習では、担任とALTが役割分担をしたり、ICT機器を効果的に活用したりしながら、主体的・対話的で深い学びをめざした授業が定着してきた。 また、少年の主張大会(英語部門)を実施し、英語に対する児童生徒の興味関心を高めることに繋がった。 しかし、県教委主催の英語スピーチコンテストとの重なり等により、児童生徒の負担や教職員の超過勤務が増加する等の課題もある。
⑤ 情報教育の推進	(関連予算額 52,207千円) 児童生徒用タブレット端末のさらなる活用のため、セキュリティソフトや学習ソフトを導入し、ICT支援員を活用して授業力向上のためのICT活用支援を行った。 今後も引き続き、ICT機器を活用した授業力向上の取組や家庭学習における活用促進の検討を進めて参りたい。

## 《 指 標 》

指 標	指標の概要	現状値	目標値	達成状況
②教育相談体制の推進	来庁相談の件数	20件	20件	
③特別支援教育の充実	実態に応じた支援員の配置	15名	15名	
④国際理解教育の推進	ALT の配置	小 中 3名 2名	小 中 3名 2名	○
⑤情報教育の推進	ICT支援員による研修	年3回	年3回	

※ 目標を完全に達成できた ◎

目標達成に向けて順調に推移。もしくは概ね目標を達成できた ○

目標達成には取組の強化が必要 △

目標を大きく下回り、抜本的な見直しが必要 ×

## 事業の区分

### 学校教育の充実

#### 《事業の内容及び状況》

取組・事業名	実施状況・成果及び課題等
① 教育施設環境の整備	<p>(関連予算額 350, 500千円)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・宮田北小学校大規模改修工事 宮田北小学校の校舎及び体育館について、老朽化した施設の長寿命化及び学習環境の整備を目的とし、屋上防水や外壁の改修、床材の張替や照明のLED化等の改修を行った。 併せて、避難所としての機能向上のため、体育館に多目的トイレを含む屋外トイを増設した。</li><li>・宮田南小学校グラウンド整備工事 宮田南小学校のグラウンド内にある老朽化したプールを解体し、より広く使いやすいグラウンドとする整備を実施した。</li></ul>

#### 《指標》※指標がないパターンもあり

指標	指標の概要	現状値	目標値	達成状況
				◎

※ 目標を完全に達成できた

◎

目標達成に向けて順調に推移。もしくは概ね目標を達成できた

○

目標達成には取組の強化が必要

△

目標を大きく下回り、抜本的な見直しが必要

×

## 事業の区分

### 学校教育の充実

#### 《事業の内容及び状況》

取組・事業名	実施状況・成果及び課題等
① 安心・安全な学校給食と食育の推進	(関連予算額 2,511 千円) 地産地消の取り組みとして、宮若産おいしいお米コンクールにおいて、金賞受賞米を月1回の給食に取り入れ、牛肉に関する高野地区の森下哲次牧場より、年に1回の宮若牛を使用した給食を実施し、給食時間を通して児童生徒へ食育の推進を図った。

※説明資料等あれば挿入

#### 《 指 標 》 ※指標がないパターンもあり

指 標	指標の概要	現状値	目標値	達成状況
地産地消の推進 (予算設定)	宮若米の使用目標量に対する宮若米の現状値	6,930kg	6,930kg	○
	宮若牛の使用目標量に対する宮若牛の現状値	121kg	121kg	○
地産地消の推進 (食材率)	食材全体に占める地産食材目標 %	31.8%	30%	○

※ 目標を完全に達成できた

◎

目標達成に向けて順調に推移。もしくは概ね目標を達成できた

○

目標達成には取組の強化が必要

△

目標を大きく下回り、抜本的な見直しが必要

×

## 事業の区分

### 生涯学習の推進

#### 《事業の内容及び状況》

取組・事業名	実施状況・成果及び課題等
① 生涯学習センター事業 ・図書の購入 ・ブックスタート事業 ・学校図書館との連携事業 ・図書館ボランティアの活動支援 ・おはなし会の実施 ・図書館新聞の発行 ・レファレンスサービスの実施 ・企画展示 ・新刊案内の発行 ・本旅の実施 ・図書館便の実施 ・家読の推進 ・調べる学習コンクールの実施	(関連予算額 23,862千円)  ・図書館システム更新に伴って図書館ホームページのリニューアル、貸出や延長申請の電子化等、利用者の利便性向上を図った。 ・ふるさと納税寄付金のうち150万円を図書購入費として活用し、蔵書の充実に努めている。 ・子どもの読書活動の充実と定着に努めるため、保健センターパレットと連携し、健診の際に絵本や図書館の利用案内等一式をお渡しするブックスタート事業をはじめ、小学生読書リーダー養成講座、貸出文庫、学習支援ブックバック、POPの募集・展示などを実施した。 ・学校図書館との連携事業を再開した。 ・「おはなし会」の新たな試みとして、市内小中学校ALTを講師に「英語でおはなし会」を開催した。 ・令和4年度より実施している「調べる学習コンクール」は、令和5年度は「図書館を使った調べる学習コンクール」とし、自らで情報収集・分析を行い、50件の作品応募があった。
② 子育て支援・家庭教育事業	(関連予算額 776千円) 令和5年度は、子育てサロン(鞍手竜徳高校)を11回実施した。幼小中学校における家庭教育講座は幼稚園2園で開催した。
③ 高齢者大学	(関連予算額 921千円) 高齢者の生きがいづくりのため、高齢者大学として、教養講座や笑顔の体操、カラダよかトレ、折り紙、スマホ・タブレット、男性楽しくストレッチ体操の講座を実施した。
④ 笠松研修センター事業	(関連予算額 166,133千円) 令和3年度から5年度にかけて実施した、笠松研修センター改修事業が完了した。

《 指 標 》 ※指標がないパターンもあり

指 標	指標	現状値	目標値	達成状況
① 生涯学習センター事業 ② 子育て支援・家庭教育事業	生涯学習講座参加人数(年間)	174人	160人	◎
	図書の年間貸出冊数(年間)	126, 651冊	167, 000冊	△
	ボランティア団体への支援件数(年間)	62件	60件	◎
③ 高齢者大学	高齢者大学の参加者数(年間)	1, 642人	1, 320人	◎

※ 目標を完全に達成できた ◎

目標達成に向けて順調に推移。もしくは概ね目標を達成できた ○

目標達成には取組の強化が必要 △

目標を大きく下回り、抜本的な見直しが必要 ×

## 事業の区分

### 青少年の健全育成

#### 《事業の内容及び状況》

取組・事業名	実施状況・成果及び課題等
① 青少年育成事業 ・はたちのつどい ・サマーチャレンジ、スプリング チャレンジ ・七夕席上揮毫会 ・リコリス子どもまつり ・少年の主張大会 ・学校週5日制事業「わいわい サークル」	(関連予算額 3,189千円) <ul style="list-style-type: none"><li>・新型コロナウイルス感染症拡大以前の規模と同様に「はたちのつどい」を実施することができた。</li><li>・異学年交流を目的とした体験学習である「サマーチャレンジ」「スプリングチャレンジ」の応募者が定員を大きく上回っていることから、なるべく多くの応募者を受け入れるため、定員や開催回数を増やして事業実施した。</li><li>・「リコリス子どもまつり」は多くのボランティアや関係団体の協力、また、キッチンカーを設置して飲食ブースを充実させ、雨天にもかかわらず1,300名の来場があった。</li><li>・新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う事業中止以降、「わいわいサークル」参加者が減少傾向にあることから、令和6年度開始分からの参加対象や費用負担の見直しを行った。</li></ul>
② 環境浄化の推進 ・有害図書等に関する環境浄化活動 ・街頭指導	(関連予算額 10千円) <ul style="list-style-type: none"><li>・関係機関等と連携し、有害図書類に関する立入調査を実施した。</li><li>・令和5年度は、4年ぶりに花火大会等が実施されたため、青少年育成市民会議の構成団体を中心に街頭啓発を行った。</li></ul>

《 指 標 》 ※指標がないパターンもあり

指 標	指標の概要	現状値	目標値	達成状況
① 青少年育成事業	体験学習の充実	225人	180人	◎
	青少年育成活動の参加者数	1, 518人	1, 770人	○

※ 目標を完全に達成できた

◎

目標達成に向けて順調に推移。もしくは概ね目標を達成できた

○

目標達成には取組の強化が必要

△

目標を大きく下回り、抜本的な見直しが必要

×

## 事業の区分

### 芸術文化活動の充実

#### 《事業の内容及び状況》

取組・事業名	実施状況・成果及び課題等
① 芸術文化各事業の実施 ・文化連盟への助成 ・リコリスエントラנסコンサート ・地域住民のためのコンサート ・宮若市文化祭	(関連予算額 2,628千円) ・市民及び市内文化団体の日頃の芸術、文化活動の成果の発表の場として宮若市文化祭を開催し、飲食ブースの設置や市内保育園児の発表も行い、2千人以上の参加があった。 ・精華女子高等学校吹奏楽部による地域住民のためのコンサートを開催、来場者が471名となった。 ・リコリスエントラヌコンサートを4回開催し、377名の来場があった。

《 指 標 》 ※指標がないパターンもあり

指 標	指標の概要	現状値	目標値	達成状況
① 芸術文化各事業の実施	芸術文化イベント参加者数(年間)	2, 961人	2, 040人	◎
	文化連盟参加団体数	62団体	63団体	○

※ 目標を完全に達成できた

◎

目標達成に向けて順調に推移。もしくは概ね目標を達成できた

○

目標達成には取組の強化が必要

△

目標を大きく下回り、抜本的な見直しが必要

×

## 事業の区分

### 文化財の保護・継承

#### 《事業の内容及び状況》

取組・事業名	実施状況・成果及び課題等
① 市の歴史や文化の継承・普及 ・埋蔵文化財報告書の作成 ・文化連盟と共に歴史探訪の開催 ・竹原古墳の公開 ・出前歴史講座の開催 ・文化財保護ボランティア講座の開催 ・宮若トレッジでの企画展 ・古代フェス ・文化振興シンポジウムの開催	(関連予算額 1,759千円) <ul style="list-style-type: none"><li>・若宮地区で発掘調査した「小伏原柿遺跡」の調査報告書を作成中である。</li><li>・春、秋開催の竹原古墳の無料公開につき、コロナ禍以前と同様に戻り再開した。</li><li>・各施設来館者数 宮若トレッジ:4,591人、竹原古墳:2,320人、石炭記念館:1,576人</li><li>・宮若トレッジで、企画展を夏休み期間、及び文化振興シンポジウムの開催に併せ実施した。</li><li>・「古代フェス」に約350人の参加があった。</li><li>・竹原古墳をテーマとした文化振興シンポジウムを開催した(隔年実施)</li></ul>
② 石炭文化の継承 ・石炭イベントの実施 ・貝島百合野山荘の今後の活用等についての調査研究	(関連予算額 296千円) <ul style="list-style-type: none"><li>・リコリス子どもまつりとあわせ、石炭イベント「きよだいめいろ 炭鉱のまち 宮若からの脱出」を開催した。</li><li>・貝島百合野山荘にかかる報告書を所有者から受領し、検討課題について協議を行った。</li></ul>

《 指 標 》 ※指標がないパターンもあり

指 標	指標の概要	現状値	目標値	達成状況
① 市の歴史や文化の継承・普及	竹原古墳年間観覧者数(年間)	2, 320人	1, 800人	◎
	宮若トレッジ来館者数(年間)	4, 591人	3, 600人	◎
	ボランティア養成講座参加者数(年間)	36人	50人	△
② 石炭文化の継承	石炭記念館来館者数(年間)	1, 576人	1, 540人	◎

※ 目標を完全に達成できた ◎

目標達成に向けて順調に推移。もしくは概ね目標を達成できた ○

目標達成には取組の強化が必要 △

目標を大きく下回り、抜本的な見直しが必要 ×

## 事業の区分

### 人権尊重社会の構築

#### 《事業の内容及び状況》

取組・事業名	実施状況・成果及び課題等 (関連予算額 3,607千円)
<ul style="list-style-type: none"><li>○人権教育・啓発事業<ul style="list-style-type: none"><li>・街頭啓発</li><li>・講演会</li><li>・行政職員・教職員研修</li><li>・地域懇談会</li><li>・人権子ども会</li></ul></li><li>○人権啓発冊子及びカレンダーの作成<ul style="list-style-type: none"><li>・人権ポスターの募集</li></ul></li><li>○関係機関と連携した教育啓発事業<ul style="list-style-type: none"><li>・課題別研修会</li><li>・講演会、学習会等</li></ul></li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・新型コロナウイルス感染症防止対策により中止していた同和問題啓発強調月間街頭啓発を、以前より規模を縮小して市内4ヶ所で実施した。</li><li>・同和問題啓発強調月間人権講演会を開催、126名の参加があった。</li><li>・人権問題地域懇談会を昨年より2会場増やして開催し、市内4会場で240名の参加があった。</li><li>・市内小中学生を対象に人権ポスターを募集、優秀作品を掲載した人権カレンダーを作成し、人権啓発冊子とともに市内全戸配布した。</li></ul>

《 指 標 》 ※指標がないパターンもあり

指 標	指標の概要	現状値	目標値	達成状況
人権教育・啓発事業	人権講演会参加者数(年間)	263人	330人	△
	人権問題地域懇談会参加者数(年間)	240人	470人	△

※ 目標を完全に達成できた ◎

目標達成に向けて順調に推移。もしくは概ね目標を達成できた ○

目標達成には取組の強化が必要 △

目標を大きく下回り、抜本的な見直しが必要 ×

## 事業の区分

### スポーツの推進

#### 《事業の内容及び状況》

取組・事業名	実施状況・成果及び課題等
① スポーツフェスタ等各種スポーツ大会・教室の開催	(関連予算額 867千円)  スポーツフェスタについては、教育委員会・スポーツ推進委員会・体育協会・総合型スポーツクラブ・老人クラブ連合会のそれぞれが実施主体となり分散型で14種目を実施した。 スポーツ教室については、陸上教室、サッカー教室を実施した。水泳教室、スナッグゴルフ教室については、施設の不具合等により中止した。
② 総合型スポーツクラブの育成	(関連予算額 0千円)  令和5年度会員数175名、事業を実施し、延べ2,996名の参加を得ており、市民のスポーツ活動の一環として根付いている。新型コロナウイルス感染症の影響により、参加者数が目標値を下回っており、コロナ禍明けの事業展開が重要となる。
③ 体育協会の育成(補助金)	(関連予算額 1,840千円)  体育協会は、市民の自発的なスポーツ活動の振興及び普及を図り、スポーツを通して市民の健康で活力のある豊かな生活の創造に資することを目的に活動を行っている。自主運営組織としての更なる強化が課題となる。(14団体)
④ スポーツ少年団の育成(補助金)	(関連予算額 900千円)  スポーツ少年団は、青少年の健全な心身の育成を図ることを目的に活動を行っている。団員増加に向けた取り組みが課題となる。(20団体)

※説明資料等あれば挿入

《 指 標 》 ※指標がないパターンもあり

指 標	指標の概要	現状値	目標値	達成状況
① スポーツフェスタ等各種スポーツ大会・教室の開催	スポーツフェスタの参加者数 (年間)	1,650 人	1,400 人	◎
② 総合型スポーツクラブの育成	宮若いきいきスポーツクラブ 参加者数 (年間)	2,996 人	1,280 人	◎